

例を見ない5径間・延長193・3m、幅員5mの木造アーチ橋。昭和25年にキジア台風

「強い気持ちで高い技術を」

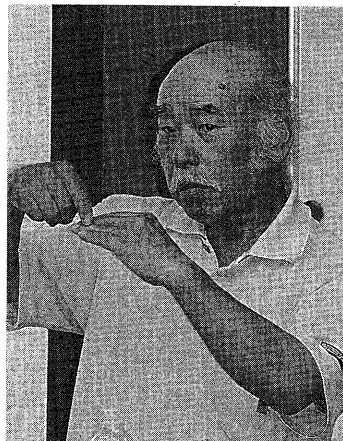
老崎組代表の講演会で流失した後、昭和26年28年の「昭和の架け替え工事」には、海老崎氏の祖父と父が従事した。その50年後、海老崎氏が棟梁を務めた工集団を率いて50年ぶん、平成の架け替え工事は、も木造技術へのこだわりや、それを未来へと振り返って語った。要性を訴えた。「地元の大工ができるのか」という周囲の声に対し、「祖父や父ができるところなら、自分たって必ずできる」と確信してチヤレンジした」と当時、行われ、26億円をかけ継承していくことの重きを讀む。

伝統技術の後継者育成にも力を注ぐ海老崎氏は、参加者に「大工は樂をしてはだめ。われわれには技能を守り、文化を守る誇りがある。ただの労働者ではない」と訴え、「時には、やせがまんも必要かもしないが、強い気持ちを持って高い技術を目指してほしい」とエー

ルを送った。
海老崎氏は、この日
の講演の中で、宮大工
の直井光男氏との交流
や、実際に現地に赴い
て様子を見ってきた西本
願寺修復や伊勢神宮遷
宮についての現場見聞
録についても映像や画
像を交えて話した。
参加した若い大工ら
は、歴史的な仕事を成
し遂げた棟梁の話を熱
心に耳を傾けていた。

「錦帶橋」架替工事の

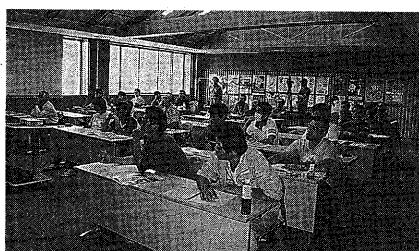
長野県建設労連（松本市）は9月22日、建
労会館で信州職人学校の公開講座を開き、木
造アーチ橋として世界的にも有名な「錦帯橋」
(山口県岩国市) の架け替え工事で棟梁を務
めた海老崎彌次氏（海



若手の大工たちに木造技術への
熱い思いを語る海老崎氏

若手大工に熱いエール

建設労連信州職人学校の公開講座



歴史的な仕事を手掛けた棟梁の話を真剣な表情で聞く参加者